

# 令和5年度前期選抜試験

# 国語

## 注意

- 1 合図があるまでこの問題用紙は開かないこと。
- 2 解答用紙に受験番号、氏名を記入し、受験番号はマークもすること。
- 3 答えはすべて解答用紙にマークすること。
- 4 問いにあてはまる答えを<sup>せんたくし</sup>選択肢より選び、該当する記号にマークすること。

例 問1にエ、問2にウ、問3にアと答えたいとき

問1	<input type="radio"/> ア	<input type="radio"/> イ	<input type="radio"/> ウ	<input checked="" type="radio"/> エ
問2	<input type="radio"/> ア	<input type="radio"/> イ	<input checked="" type="radio"/> ウ	<input type="radio"/> エ
問3	<input checked="" type="radio"/> ア	<input type="radio"/> イ	<input type="radio"/> ウ	<input type="radio"/> エ

横芝敬愛高等学校

【1】次の問いに答えなさい。

問1 傍線部の慣用句の使い方が正しいものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア いつもがんばっている後輩に自信をつけさせるために勝ちを譲って棒に振らせた。
- イ 新型ウイルスのワクチン開発のためにたくさんの製薬会社が足を引っ張ってきた。
- ウ しばらく会えなかった友人が訪ねてくるので腕によりをかけた料理でもてなした。
- エ 第一志望の学校に合格できたことがあまりにもうれしくて隅におけない思いです。

問2 「温故知新」の意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 今までそれをやろうと考えた人がおらず、誰も成し遂げたことがないこと。
- イ 過去を振り返ったときに感じる心温まる懐かしい気持ちを大切にすること。
- ウ 初めから終わりまで同じ考えを貫いて、方針や方法を決して変えないこと。
- エ 過去の歴史や伝統をよく研究することで、今の新しい事態に対処すること。

問3 傍線部の動詞と同じ活用形のもを次の中から一つ選び、マークしなさい。

「装飾に工夫を凝らして来場者の興味を引こうと思う。」

- ア みんなが真剣なので笑わないように注意した。
- イ 締め切りが一週間延びたことを後で知った。
- ウ 外国映画を見る時はいつも日本語吹替を選ぶ。
- エ 午後七時までに戻ればパーティーに間に合う。

問4 総画数が他と異なる漢字を次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 印
- イ 亜
- ウ 困
- エ 危

問5 次の説明に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

「物事の成否にかかわる大事な場面」

- ア 金相場
- イ 修羅場
- ウ 正念場
- エ 独壇場



【3】 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

西洋は古代ギリシアで議論が発達して以来、反論を通じて発展してきました。「反論することは悪いことではない、逆にすぐ相手に同調してしまつたら面白くない」<sup>①</sup> という気質が西洋人の間には脈々と受け継がれてきました。

彼らにとって、安易な同調はかえって「不誠実」なのです。反論することこそ、相手にとっても自分にとっても、さらには神に対しても誠実な態度だと考えられています。「神に対しても」と言っても、別に神に直接反論するわけではありません。真理を求めて相手に反論することは、神の意に沿うことだという意味です。中世神学（スコラ学<sup>\*1</sup>）では、論争が盛んでした。そういう議論の習慣が血肉化<sup>②</sup> していますから、西洋人は他人から反論されることに對しても非常にタフで、言ってみれば「反論耐性」が高い人たちなのです。

ところが一般的な日本人は、人間関係を重視して、互いに同調し合つて話し合いを進める「同調文化」を育んできました。そのために反論耐性<sup>③</sup> がものすごく低いのです。反論されると、「この人は私のことが嫌いなのかしら」と萎縮<sup>いしゆく</sup> してしまつたり、「こいつ、俺に逆らうつもりなのか」とカッとなつたりと、すぐに気分を害してしまいがちです。「どんどん反論してください」、「反論されるといまままで気づかなかつたことに気づくことができる。ありがたいな」と心から言える日本人は少数派なのです。

これは国民性のようなものだからいかんともしがたいところもありますが、一般的に日本人は自己主張があまり強くなく、自分の意見に強い<sup>④</sup> を持っていません。

すぐに「すみません」と言つてしまふ日本人と比べると、欧米では、非がある場合でも自分の正当性をとうとうと述べ、自信満々で反論してくる傾向があります。ただ考えてみればそれは、西洋人だけではなく、中国人や韓国人、インド人にも<sup>⑤</sup> そうした傾向があります。つまり、世界の中心で日本人は飛び抜けて自己主張が弱い人種なのです。もしかしたら、ずっと昔、あまりに押しが弱かつたために、この極東の島国にまではじき飛ばされてきたのが私たちの先祖なのかもしれません。

こうした単なる自己主張だけでなく、他人からの反論を受け止めて自分自身をステップアップさせていくという<sup>\*2</sup> 弁証法的態度も日本人には希薄です。

西洋で自然科学が発達した背景には、この反論を受け止めてステップアップしていくという態度がありました。

⑥ 進化論を唱えたダーウインは、自ら打ち立てた進化論を「どんどん否定してください」という姿勢を持っていました。自分の打ち立て

た考えを決して最良のものとは考えず、反論があれば「なるほど。そうであれば、こういうことなのかもしれない」と考えをブラッシュアップしていったのです。否定されることによって学問的発展は達成されるという科学的精神をダーウィンはしっかり備えていたのです。

齋藤孝『頭が良くなる議論の技術』

※1 スコラ学 … 中世キリスト教世界に成立した学問の総称。哲学・神学・法学・自然学などを含む。

※2 弁証法 … 対話・弁論のための技術。

※3 ブラッシュアップ … 上を目指す、あるいは磨きをかけて良くすること。

問11 傍線部①「脈々と受け継がれてきました」について、何が「受け継がれ」たのか。最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 反論することを「不誠実」と考える傾向。
- イ 真理を求め神に誠実であろうとする傾向。
- ウ 人間関係を重視して互いに同調する傾向。
- エ 安易に相手に同調しないで反論する傾向。

問12 傍線部②「血肉化」の意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 必要以上に栄養を摂取すること。
- イ 生々しいものになってしまうこと。
- ウ 自分のものとして取り込むこと。
- エ 必要に応じ残酷なものになること。

問13 傍線部③「いかんともしがたい」の使い方が正しいものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア あの会社の雰囲気はいかんともしがたいから是非参考にさせてもらおうといい。
- イ 彼女のいかんともしがたいところは大らかな性格と優れたリーダーシップだ。
- ウ 彼の願いをかなえようにも社会常識に反しているからいかんともしがたいよ。
- エ 僕の考えが伝わらず誤解されてしまったのはたいへんにいかんともしがたい。

問14 ④に入る語句として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 関係
- イ 自信
- ウ 誠実さ
- エ 耐性

問15 傍線部⑤「そうした傾向」とはどのようなものか。最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 萎縮したり、すぐに気分を害してしまう傾向。
- イ 反論されても「ありがたいな」と言える傾向。
- ウ すぐに「すみません」と言ってしまう傾向。
- エ 自分に非があっても強引に自己主張する傾向。

問16 ⑥に入る語句として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア あるいは                      イ たとえば                      ウ だから                      エ つまり

問17 次の会話は本文に対する感想を述べたものである。本文の内容に合うものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

ア A君 「欧米人は、反論することを相手にとっても自分にとっても誠実な態度だと考えているんだね。反論するのは悪いことではない、  
というのには僕にとっては興味深い考え方だな。」

イ Bさん 「うーん、日本人はルールやマナーを重視した議論をするからなあ。私にはどちらかという日本人の議論の方が質が高いように  
も思えるんだけど、実際のところはどうかなんだろうね。」

ウ Cさん 「それはいえているかも。きれいごとのようだけど、最近では学校でも議論の練習もするし、反論されても『ありがたい』と考えて、  
人間関係を上手に作る日本人の方が多んじゃない？って思う。」

エ D君 「僕は中国や韓国、インドの人たちにも日本人と似た傾向があって、国民性のようなものでいかんともしたがたいって考えに賛成だ  
な。最近のニュース報道を見ていると納得できるよ。」

#### 【4】 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

ピアノ教室を休んだ香音は、偶然聞こえてきた音色にひかれてオルゴール店に入ると、話しかけてきた店員にオルゴールをくれると言われた。

結局、店員さんに差し出された段ボール箱を、香音は両手で受けとった。どのみち、レッスンは終わる時刻までは家に帰れない。この炎天下、  
時間をつぶす場所もない。ただでくれると親切に言ってもらっているのだから、厚意に甘えてしまおう。

「よかったら、そちらでどうぞ」

店員さんが奥のテーブルをすすめてくれた。香音は椅子に腰かけて、オルゴールをひとつひとつ聴いてみた。底についているぜんまいを回すと  
音が鳴る。知っている曲もいくつかあったけれど、そうでないもののほうが多かった。聞き覚えのないメロディーは耳にひっかからずに流れ去り、  
潔く消えていく。

透明な箱の中には、表面に細かいぶつぶつがついた円柱形の部品と、櫛の歯のようなかたちをひらいた部品が、隣りあわせに配置されている。  
円柱の突起が歯をはじき、音が出るしくみらしい。

ピアノみたいだ。思いあたり、反射的に目をそらした。なめらかに繰り返されていた旋律が、少しずつこちなく間延びして、ついにとまった。  
先週、コンクールが終わってはじめてのレッスンで、南先生は心配そうに言った。

「香音ちゃん、大丈夫？」  
香音は絶句した。

「香音ちゃんは本当によくがんばったわ。がんばりすぎて、ちょっと疲れちゃったのかもね。無理しないで、しばらくゆっくりしてみたら？」  
いたわるように、先生は続けた。

「誰もが一位になれるわけじゃない。ここはそういう世界だから。でも、一位になるためだけに弾くわけでもないのよ」  
あれから一週間、香音はほとんどピアノを弾いていない。

③ どうしても、ピアノの前に座ろうという気分になれなかった。ピアノを弾きはじめて六年間、こんなことは一度もなかった。全国大会に進めなかったから、落ちこんでいるわけじゃない。それでやる気を失くしたわけでも、自棄<sup>や</sup>けになってるわけでもない。ただ、自分でも気づいてしまったのだ。わたしの音には元気がない。そんな音を響かせることも、誰かに聴かせることも、耐えられない。

この機会に別の先生に習ってみたらどう、と昨日お母さんに言われた。

黙って首を横に振っただけですませたのは、うまく伝えられる自信がなかったからだ。考えを言葉で言い表すのは、すごく難しい。音楽を使えば、と香音はいつもどかしく思う。楽器でうれしい音や悲しい音を鳴らして伝えられたら、わかりやすくして簡単なものに。

南先生は悪くない、と本当は言い返したかった。入賞できなかったのは先生のせいじゃない。わたしの力が足りなかった。だからこそ、がんばらなきゃいけないのに。がんばって練習して、上手になって、お母さんや先生を喜ばせたいのに。

「気に入ったもの、ありましたか」

店員さんから声をかけられて、香音はわれに返った。聴き終えたオルゴールが、テーブルの上にはばらばらと散乱している。

「すみません、ちょっとまだ」

香音はひやひやしてうつむいた。気を散らしてばかりで、身を入れて選んでないのがわかってしまっただろうか。ただで持っていていいと気前よくすすめてくれたのに、気を悪くしたのかもしれない。

「少々、お待ち下さい」

無言で香音を見下ろしていた店員さんが、唐突に言った。

耳もとに手をやって、長めの髪をかきあげる。かたちのいい左右の耳に、透明な器具のようなものがひっかかっていることに、香音ははじめて気づいた。

彼はてきばきと器具をはずし、テーブルの上に置いた。④ ことり、と軽い音がした。素材はプラスチックだろうか。めがねの端っこをぱつんと切り落としたような、ゆるいカーヴのついたつるの先に、耳栓に似たまるい部品がくっついている。

変わった器具について見入っている香音を置いて、店員さんは棚のほうへ歩いていった。新たなオルゴールをひとつ手にとって、戻ってくる。「これはいかがですか」

「⑤ 自らせんまいを回してみせる。流れ出したメロディーを聴いて、あっと香音は声を上げてしまった。」

「讃美歌？」

「⑥ ついさっき、教会でひさびさに思い返していた曲だった。聖歌隊の⑧ 十八番で、日曜礼拝でたびたび伴奏したのだ。」

「⑥ 安らかな日々だった。コンクルのことも、南先生のことも、知らなかった。鍵盤に指を走らせるのが、ただただ楽しかった。幼稚園の先生にも、友達やその親たちにも感嘆され、聖歌隊からは感謝され、礼拝の参列者の間でも評判だった。香音ちゃんのピアノは神様の贈りものだ、と園長先生は感慨深げに言ったものだ。大切にしなさい。その力はみんなを幸せにするからね。」

オルゴールがとまるのを待って、香音は口を開いた。

「これ、下さい」

「よかった。実は僕も、耳は悪くないんです」

店員さんは目を細め、香音にうなずきかけた。

「すぐくいい音で鳴っている」

「いい音ね。不意に、南先生の声が香音の耳もとで響いた。ぎゅう、と胸が苦しくなった。」

瀧羽麻子『ありえないほどのうさいオルゴール店』

※1 十八番 … もっとも得意な芸や技。

問18 傍線部①「反射的に目をそらした」とあるが、なぜ「目をそらした」のか。最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア コンクルで入賞できなかったことが原因で、ピアノに対して嫌悪感を抱いていたから。
- イ ながさめてくれた南先生に素直になれなくて、嫌われてしまったことを思い出したから。
- ウ 誰よりも期待を寄せてくれた母に、全国大会に進めなかったことを責められたから。
- エ たまたま選んで聴いてみたオルゴールの音色が、ピアノよりも澄んだ音に聞こえたから。

問19 ②に入る語句として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

ア 音

イ 声

ウ 目

エ 指

問20 傍線部③「どうしても、ピアノの前に座ろうという気分になれなかった」理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア コンクールに向けてがんばりすぎて、ちょっと疲れてしまったから。
- イ 自信を持ってコンクールに出場したが、全国大会に進めなかったから。
- ウ コンクールが終わって、自分の演奏に魅力が無いことに気づいてしまったから。
- エ ピアノでうれしい音やかなしい音を鳴らすことができなくなってしまったから。

問21 傍線部④「ことり」と同じ種類のものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 階段から落ちるのではないかとひやひやした。
- イ 交差点を路面電車がたごと通り過ぎた。
- ウ できたてほやほやのおまんじゅうを試食した。
- エ 彼は難しい仕事をてきぱきと片付けた。

問22 傍線部⑤「みせる」と同じ用法のものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 雲に隠れて見えなかった山頂がようやく姿をみせた。
- イ 上品にみせることで初対面の相手に好印象を与えた。
- ウ ライバルに弱みをみせるのがいやだったので我慢した。
- エ ダンスの動きを説明するために実際に踊ってみせた。

問23 傍線部⑥「安らかな日々」を説明したものとして最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 自分のピアノを聴いて、お母さんや先生が喜んでくれたところ。
- イ ピアノを弾くことが楽しくて、ピアノの音にも元気があったところ。
- ウ 全国大会に進む実力があり、周りの人たちに期待されていたところ。
- エ 難しい曲を弾く必要がなく、大人に批評されることもなかったところ。

問24 香音の年齢について当てはまるものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 幼稚園生
- イ 小学生
- ウ 中学生
- エ 高校生

問25 本文の内容と合うものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア オルゴールで讃美歌の音色を聴いた香音は、ピアノに対する悩みをふっきることができた。
- イ 香音は、コンクールが原因で自分の母親と南先生の仲が悪くなったと思ひ込んでいる。
- ウ 香音の母親は、コンクールで入賞できなかったのは南先生のせいだと考えている。
- エ 久しぶりに教会で讃美歌を聴いた香音は、ピアノを習い始めたことを後悔している。

【5】 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

勝軒しょうけんといふ剣術者あり。其家そのいえに大なる鼠出ねずみて、白昼ねずみにかけまはりける。亭主※1そのま其間そのまをたてきり、手飼てがいの猫①とに執とらしめんとす。彼鼠進かのみて、猫のつらへ飛びかかり、喰くつきければ、猫声ねここゑを立て逃げ去りぬ。此分※2いちもつにては叶かなふまじとて、それより近辺※2いちもつにて逸物逸物の名を得たる猫③どもあまたかりよせ、彼の一間ひとまへ追入おしいれければ、鼠※3とこは床のすみにすまる居て、猫来④れば飛びかかり喰くひつき、其気色そのけしきすさまじく見えければ、猫どもみな尻しり込みして進まず。

亭主腹ていしゅを立て、自ら木刀きとうをさげ、打ち殺ころさんと追ひ廻まわしけれども、手元てもとよりぬけ出で、木刀きとうにあたらず、そこら戸障子とじりからかみなどたたきやぶれども、鼠ねずみは宙そらを飛んで、其早※4きこと電光でんこうのうつるがごとし。ややもすれば、亭主ていしゅのつらへ飛びかかり喰くひつくべき勢いきおいあり。

勝軒しょうけん大汗おほあせを流し、僕しもべを呼んでいふ。「これより六七町※4さきに、無類逸物むるいいちもつの猫ありと聞く。かりて来れ。」とて、則※5すなわち人をつかはし、彼猫かのねこをつれよせて見るに、其形そのかたちりこうげにもなく、さのみはきはきとも見えず。「先まづ追入おしいれて見よ。」とて、少し戸をあけ、彼猫かのねこを入ければ、鼠ねずみすくみて動かず、猫何ねこなにの事もなく、のろのろと行き、引きくはへて来たりけり。

伏斎いっさい樗山しよざん『田舎いんげん荘子』

※1 其間を立てきり … その部屋を閉め切つて ※2 逸物 … 群をぬいて優れているもの

※3 床のすみ … 床の間（日本建築の座敷で、正面上座に床を一段高くした所。掛け軸や置物などを飾る。）の隅

※4 六七町 … 町は距離の単位で、一町は約百九メートル ※5 則ち … すぐに

問26 傍線部①「執らしめんとす」の意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 追い払わせようとする      イ 従わせようとする      ウ 捕まえさせようとする      エ 命令させようとする

問27 傍線部②「此分にては」とはどのようなことを表しているか。最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 勝軒自身が、飼猫をかわいがっているということ。  
イ 勝軒の飼猫が、鼠を非常に恐れているということ。  
ウ 鼠が、勝軒の飼猫を見くびっているということ。  
エ 勝軒の飼猫が、鼠をもてあそんでいるということ。

